

第4学年 国語科学習指導案

児童 4年3組 男子14名 女子18名 計32名
指導者 林 一広

1 単元名 わたしたちの体について調べよう 10月下旬 14時間(読む5 書く9)
(教材名 体を守る仕組み・これが、「わたし」です)

2 単元について

(1) 教材について

第3学年及び第4学年の「書くこと」における目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。

本教材は、教材文「体を守る仕組み」で段落相互の関係を考えながら内容を読み取った後、体の他の仕組みについても図書資料などで調べるとともに、必要な情報を収集・選択・整理し、それらを分かりやすく文章に書いていく教材である。

(2) 児童の実態

児童はこれまで、3年生の「ありの行列」で段落について知り、4年生の「ツバメが住む町」において段落と段落のつながりについて学んできている。また、「新聞記者になろう」や「グラフをもとに」では、相手意識を持って伝えたいことをはっきりさせて書くことを学習してきた。これらの学習を通して、分かったことや調べたことを整理してまとめようとする意識も芽生えてきている。

一学期に行った国語科に関する意識調査では、「文を書くのが好き」「どちらかといえば好き」という児童が、約2/3をしめた。しかし、上位の子と下位の子の差は大きく、事典などの参考資料を引いたり見つけたりする力はあっても、情報を処理する場面の「中心になることを簡潔に書く」「相手意識をもって分かりやすく書く」という学習では、努力を要する児童が常に数名いるのが実態で、時間を要することが多い。

(3) 指導にあたって

本単元では、参考例を提示しながらわかりやすい文章はどう書くかを覚えさせたい。そして、百科事典から必要なことを見つける手順や、分からない語句を辞典で調べる手順を確認し、読む人に分かりやすい文章を書かせたい。

(4) 研究仮説との関わり

ア 教材の工夫

ワークシートを工夫し、自分の調べたいことを容易にメモしたり、構成したりできるように、必要な項目や注意点を取り入れたシートで学習活動を進める。

イ グループ学習，T・T指導

グループ学習やT・T指導を取り入れ、つまずきの見られる児童の支援にあたりるとともに、他の児童一人ひとりの書く力をより高める指導を工夫していく。

ウ 座席表，振り返りカードの活用

児童一人ひとりの調べたいことを確認し，児童の活動状況や，つまずきの有無を座席表に記入することにより，個々の児童について具体的指導の手助けとする。また，自分の学習状況を振り返ることにより，自分のつまずきや成果を確認し，それを手がかりとして支援を行い，次の学習活動への意欲付けを図る。

3 単元の目標

自分たちの体について興味を持ち，段落相互の関係を考えながら文章を正しく読むことができる。

体について疑問に思うことを，本を読んで調べることができる。

調べたり，考えたりしたことをまとめて，今の自分を記録することができる。

[国語への関心・意欲・態度] 体を守る仕組みに関心を持ち，自分の体と結びつけながら，知りたいことを調べて文章や図にまとめようとしている。

[書 く こ と] 調べたり考えたりしたことをまとめて，今の自分を記録することができる。

[読 む こ と] 体について調べ，段落と段落の関係に気をつけて考えながら読む力を身につけることができる。

[言 語 事 項] 段落相互の関係を示す接続語について理解し，使うことができる。

4 単元の評価規準

	概 ね 満 足
関心・意欲・態度	体を守る仕組みに関心を持ち，自分の体と結びつけて知りたいことを調べて文章や図にまとめようとしている。
書 く こ と	体を守る仕組みについて，事典などで調べて材料を集め，選択している。 書こうとすることについて，引用部分をはっきりさせて書いている。
読 む こ と	書かれている内容を正確に読み取るために，各段落の要点や，段落相互の関係をつかもうとしている。 筆者の思いに自分の体験を重ね合わせて読み，一人ひとりの感じ方の違いを知ろうとしている。
言 語 事 項	段落相互の関係を示す接続語について理解し，使っている。

5 指導計画（14時間）

次	時	目 標	評価規準	単元の評価規 準との関連	指導 体制
			概ね満足		
1	1	全文を読んで、内容のあらましと書き方の特徴をとらえることができる。	体を守る仕組みについて興味を持ち、調べたいことを中心に学習計画を立てている。	関 読	一斉
	2	全文を大きく3つのまとまりに分けることができる。	接続語の働きに気をつけて、文章を3つのまとまりに分けている。	関 読	一斉
2	3	説明1の内容を詳しく読み取ることができる。	微生物を体に入り込ませない仕組みについて正確に読み取っている。	読 言	一斉
	4	説明2の内容を詳しく読み取ることができる。	微生物が体に入ったときの仕組みについて正確に読み取っている。	読 言	一斉
	5	筆者の願いを読み取り、自分の考えを持つことができる。	筆者の思いに対して、自分の考えを持っている。	関 読	一斉
3	6 本時	発表する相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えることができる。	相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えている。	関	一斉
	7	図書資料を探し、必要な部分をメモすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたいことに対して意欲を持って追求している。 ・必要とする資料を集めている。 ・集めた資料の中から自分の必要なことをメモしている。 	関 書	一斉
	8				
	9	語句の意味を辞書で調べるなどして、自分が調べたことを分かりやすく書き直すことができる。	引用文を辞書で調べ、わかりやすい文に書き直している。	書 言	T T 指導
	10	調べた資料をもとにして、体を守る仕組みを相手にわかりやすく伝わるよう文を見直し、図などを使ってまとめることができる。	調べたものから必要な資料を選び出し、相手にわかりやすく伝わるようにカードにまとめている。	書 言	
4	13	招待者を招いて、作品発表会をすることができる。	招待者に自分の作品を説明している。	関	一斉
	14	友達の作品を見て、感想を話し合うことができる。	感想交流をすることで自分の考えを深めている。	関	一斉

6 本時の指導（6 / 14 時間）

(1) 目 標

自分が調べる課題を決め ,発表する相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えることができる。

(2) 具体の評価規準

	十分満足	概ね満足	努力を要する児童への支援	評価方法
関・意・態	2年生に伝えるための方法に関心を持ち,表現方法のそれぞれのよさや特徴を理解し,相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えている。	2年生に伝えるための方法に関心を持ち,相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えている。	分かりやすさについてイメージできない児童には,これまでの学習で作成した作品を掲示し,具体的に理解できるようにする。	観察 発表 振り返りシート

(3) 授業研究の視点

- 視点・1 調べたことをまとめる表現方法は既習事項からいくつか考えられるが,読み手が2年生であるという相手意識と発表して伝えるという目的意識を大切にするため,具体物で比較,検討するなどしながら教科書のまとめ方のよさに気づかせたい。
- 視点・2 発表という目的に向けてグループ(班)学習を位置づけ,個々の考えを出し合える場となるよう支援していきたい。
- 視点・3 それぞれの調べたい項目を確認して座席表に記入し,それをもとにグループ学習の場で個々に応じた指導を進める。

(4) 展 開

段階	学 習 活 動	支援・留意点()と評価() 個...個に応じた指導
つかむ 5分	1 本時の学習課題をつかむ。 調べたいことを決め、2年生に伝える分かりやすいまとめ方を考えよう。	前時までの学習を振り返り,解決できたこととできなかったことを確認する。 「体を守る仕組み」を誰に伝えるのかをはっきりさせる。
深める	2 どのように調べ,解決していくか考える。	調べる方法について意見を出し合い,その中から選択させて調べていく見通しを持たせたい。 ・ 図書の本 ・ インターネット 等 メモ 下書き 清書 発表の順で進めることを確認する。

<p>深 め る</p>	<p>3 分かりやすいまとめ方について話し合う。</p> <p>4 グループで、個々の調べたい項目を決定し、レイアウトについて話し合う。</p> <p>5 グループで話し合われたことを発表する。</p>	<p>相手意識を大切にし、分かりやすいまとめ方はどうあればいいか考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすく書き直す必要があること <p>分かりやすい表現方法の選択</p> <p>個... 分かりやすさについてイメージできない児童には、これまでの学習で作成した作品を掲示し、具体的に理解できるようにする。</p> <p>2年生に伝えるための方法に関心を持ち、相手を意識した分かりやすいまとめ方について考えているか。(観察・発表)</p> <p>話し合いが話題から反れないように、内容と順番を確認する。</p> <p>(ア)何を調べるか (イ)誰をモデルにするか (ウ)題名は何にするか (エ)簡単なレイアウト (オ)他に書き込みたいことや、工夫したいこと</p> <p>個... 調べる項目が同じ児童のいるグループを中心に机間指導を行い、話し合いを支援する。</p> <p>同じ課題を持った人がいるか、分かりやすさという視点で工夫しようとしているかどうか気づかせたい。</p>
<p>35 分</p> <p>ま と め る</p> <p>5 分</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<p>自己評価や相互評価をして、自分の頑張りや友達の頑張りを認め合えるようにする。</p> <p>次時は、必要な情報をそれぞれの方法で探し、メモしていくことを告げる。</p>